

土砂災害から身を守るための教訓

—平成5年鹿児島豪雨災害をふりかえって—

近年、地球温暖化等による豪雨頻度の増加や規模の拡大が進んでおり、当時に比べ、土砂災害の危険が身近なものとなっています。平成5年の土砂災害やその教訓を活かし、いかにして土砂災害から身を守るかを学びましょう。

被害状況(砂防課所管)

(平成5年6月12日～9月20日)

区分	被害総括	区分	被害総括
土砂災害発生箇所数	がけ崩れ	人的被害	死者(行方不明者)
	土石流		うち土砂災害
	地すべり	家屋被害	全壊
	合計		うち土砂災害
	382箇所		121人(1人)
	48箇所		105人
	8箇所		1,544戸
	438箇所		369戸

旧日吉町毘沙門地区



少雨時に発生した地すべり災害
雨が降り止んだあと時間がたってから、地すべりが発生したため、2名が犠牲となった。

当時の体験談

災害発生前に井戸水が濁っていた。異常と判断していれば、事前に避難していたであろう。

旧日吉町小鍋川



しらす斜面のがけ崩れが多発
しらす斜面のいたるところで、がけ崩れが多発した。

旧始良町触田川



大規模なしらす斜面の崩壊

今までに経験のない豪雨であったため、大規模なしらす斜面の崩壊が発生した。

鹿児島市吉野町 竜ヶ水地区



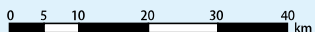
道路や鉄道の寸断による孤立化

国道10号、J R日豊本線が寸断され、通行車両の運転手や避難住民等が立ち往生し、孤立化した。

人的被害状況

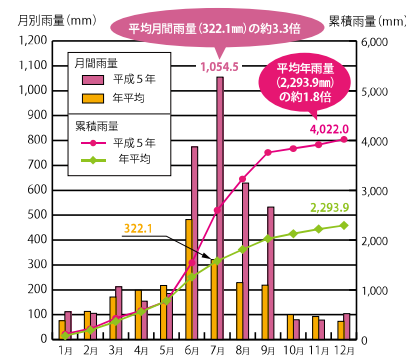
死者・行方不明者数	凡例	凡例
31人～50人	●	● がけ崩れ
10人～30人	●	● 土石流
6～10人	●	● 地すべり
1～5人	●	
なし	●	

※平成5年時の市町村名及び市町村界を示す。
※地図については、人的被害(121名)があった本土のみを示している。



- 平成5年7月には、平均月間雨量の約3.3倍もの雨が降りました。
- 年最多雨量となる4,022.0mmを観測するなど、記録的大雨となりました。

月間雨量と累積雨量(鹿児島市)



出典:気象庁 気象統計情報(1982年～2012年)

旧金峰町大坂地区



判断が難しい避難のタイミング

避難が必要と気付いた時には、安全な場所への移動ができず、20名が犠牲となった。

当時の体験談

防災計画には避難場所が掲載してあったが、午前中は風雨が弱く、台風直撃まで避難の判断が出来なかった。

旧国分市姫城地区



常時の防災訓練等が活かされた避難事例

防災意識の向上を目的に、長年、地域防災活動が継続的になされていたため、事前に住民が避難でき、一人の犠牲者もみださなかった。

当時の体験談

高齢者のリストをつくり、住んでいる場所も地図上で把握していた。

垂水市二川深港地区



自分の所で災害が発生するという認識がなかった事例

避難の呼びかけにもかかわらず、避難しなかった5名が犠牲となった。

当時の体験談

災害は自分の所では起こらないという考え違いがあった。

鹿児島市吉野町花倉地区



災害時要援護者の被災

迅速な避難が困難な災害時要援護者(入院患者9名を含む15名)が1階で犠牲となった。

土砂災害の発生状況と施設の整備状況・効果を知ろう

都道府県別土砂災害発生件数 (平成元年～平成24年)

順位	都道府県	件数
1位	鹿児島県	2,216件
2位	新潟県	1,921件
3位	長崎県	1,700件
4位	神奈川県	1,324件
5位	大分県	1,086件

本県は
全国1位

土砂災害危険箇所整備状況 (平成26年度末現在)

整備状況	箇所数
土砂災害が発生する危険性がある箇所	16,204
要整備箇所	4,952
整備済箇所	1,726

県内には、土砂災害が発生する危険性のある箇所が、16,204箇所もあります。すべての箇所を整備するためには、膨大な費用と時間がかかります。

※豊仙普賢岳噴火災害(平成3～7年)による災害発生件数を除く。

砂防施設の有無による被害状況(下伊敷5地区)(平成5年)



整備されていない箇所では被害が発生しました!

整備されている箇所では被害が 발생しませんでした!

みんなで防ごう土砂災害

土砂災害防止教育の基本理念

出典:土砂災害防止教育支援ガイドライン(国土交通省砂防部)引用

生きる力

自発的・能動的な「土砂災害対応能力」の基礎を養う



「生きる力」を育み、防災力の向上を図ろう!

県では…

土砂災害防止工事等の施設整備だけでなく、県民の皆様へ、土砂災害による人的被害を防ぐための様々な情報を提供しています。

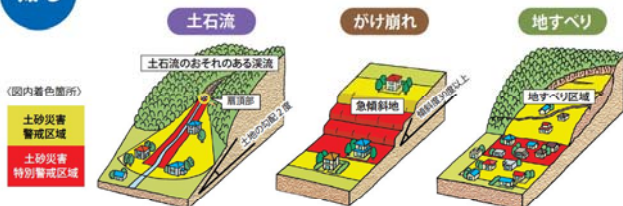
平常時や降雨時の対応を理解し、防災力の向上を図りましょう。

平常時の対応

日頃から土砂災害危険箇所等の危険なところを知っておきましょう。また、土砂災害が発生した時の避難場所についても確認し、地域ぐるみで早めの避難が出来るように、避難訓練等に参加しましょう。

知る

土砂災害危険箇所や土砂災害警戒区域などを知ろう!



県では土砂災害のおそれのある箇所を調査・指定しています

自宅周辺の危険な場所や災害時の避難場所を知ろう!



県庁ホームページ内の土砂災害警戒区域等マップでは、県内の土砂災害のおそれのある箇所が確認出来ます。この情報から自宅周辺の危険な場所を知っておきましょう。

各市町村ごとに策定している地域防災計画やハザードマップ等を確認しておきましょう。

考える 早めの避難の重要性を考えよう!



平成19年7月、垂水市二川地区で土石流が発生しました。事前に避難勧告が発令され、地域住民は避難していたため、犠牲者は発生しませんでした。

自分の生命は自分で守ることが重要です!

地域ぐるみの避難体制を確立するために行動し、日頃より土砂災害に備えよう!



避難訓練等に積極的に参加することで、地域ぐるみでの避難のあり方を考えましょう。

降雨時の対応

土砂災害の前兆現象を知っておきましょう。また、避難のタイミングについて考え、早めの避難を心がけましょう。

知る

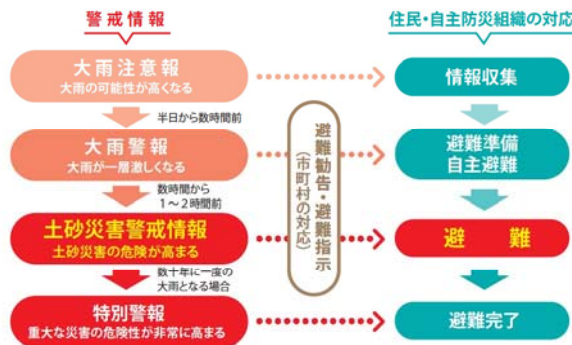
土砂災害の前兆現象を知ろう!



考える

避難のタイミングについて考えよう!

住民・自主防災組織の対応例(大雨)



県庁ホームページ内の河川砂防情報システムでは、県内の防災気象情報(土砂災害警戒情報や気象注意報等)が確認できます。これらの情報を自主避難の判断材料として、活用しましょう。

土砂災害警戒情報(土砂災害の危険性が高まる)が発表された時は、公共機関やマスコミから提供される情報の収集に努め、早めに避難しましょう。

行動する

早めの避難を心がけ、危険箇所へ近づかないようにしましょう!

大雨時には、地域の人たちと協力しながら、早めに避難し、土砂災害危険箇所などには、近づかないようにしましょう。